

# 研究テーマ: JGN II を活用した遠隔カウンセリングに関する 研究開発(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16052)

研究機関: 筑波大学、岩見沢市

## 研究の概要:

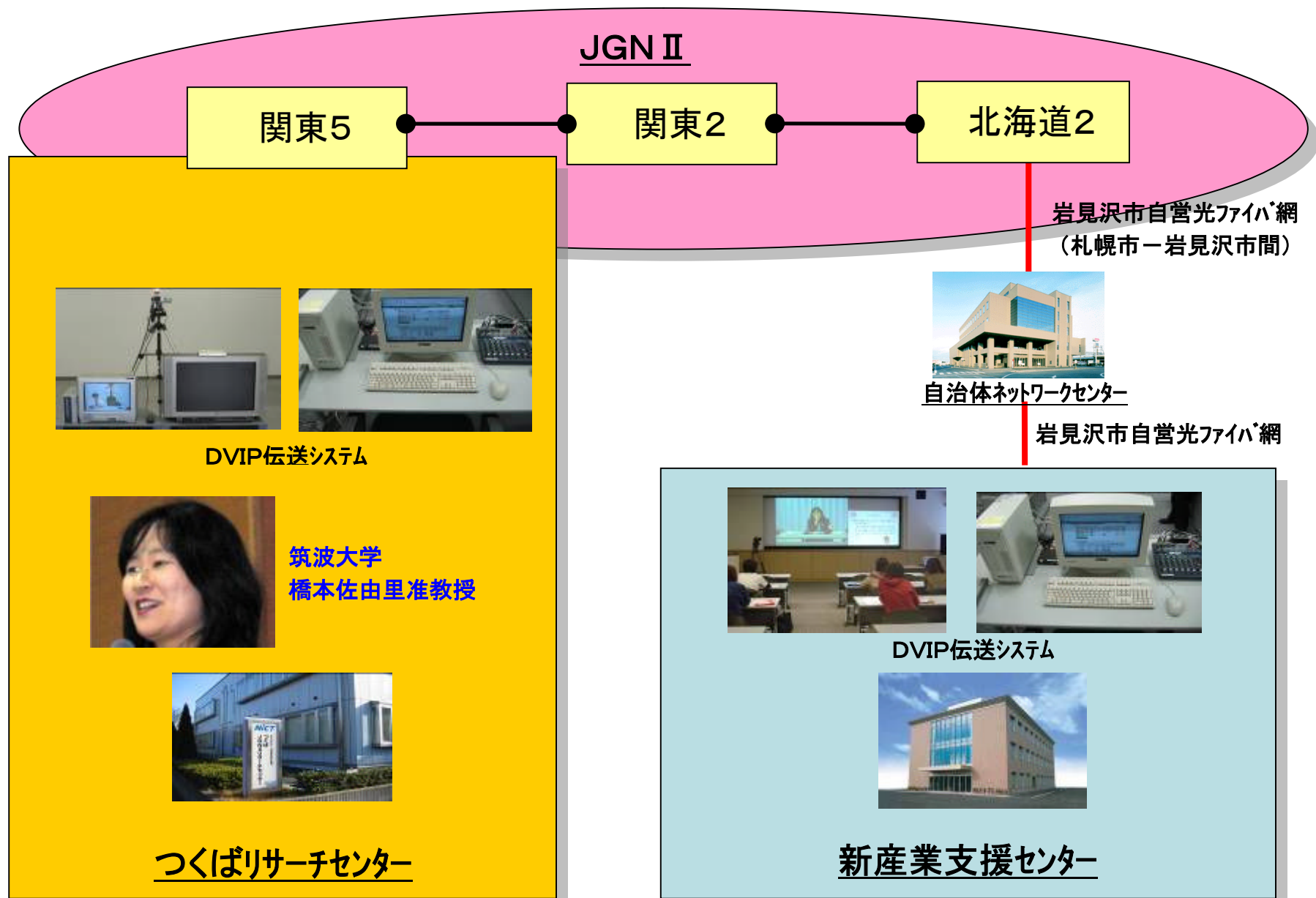
近年の食生活の変化に伴う疾病の増加(生活習慣病)や精神不安・ストレスの増大による社会問題が多発しており、地域社会においても治療と予防の両面において、適切なカウンセリング環境の構築が重要な課題となっている。

本研究では、このような課題に対応した社会構築を目的に、ネットワークを活用した次世代遠隔カウンセリング環境に関する開発・検証を実施する。

## 研究の目的:

IT活用による住民生活の質的向上を主題に、糖尿病やがんを中心とした生活習慣病患者及びその予備軍を対象としたカウンセリング支援法(SAT法)やソーシャルスキルトレーニング法、ヘルスコーチング法等により介入を行うなど、ストレス耐性の強化やセルフケアによる健康的な生活習慣の獲得について、JGN II を活用した遠隔カウンセリングシステムの開発を目的とする。

## 実験機器構成:



# 研究テーマ: JGN II を活用した遠隔カウンセリングに関する 研究開発(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A16052)

研究機関: 筑波大学、岩見沢市

## 研究開発成果:

JGNを利用し先行実施した「高齢者のための健康運動行動支援システムの開発」の先行成果を基とし、対象者層の拡大や健康状態チェックを含めた介入範囲や内容・介入環境等の拡充のもと、IT活用による個別フォロー(遠隔個別カウンセリング)や各地域をサポートする「地域カウンセラー」の養成、(遠隔講座形式によるソーシャルスキルトレーニング)により、参加者(岩見沢市民の協力者)の自己価値観や自信度の上昇が顕著に現れるなど、ITを活用した遠隔カウンセリングの効果が確認された。

## プロジェクトのアピールポイント

### ○既存IT環境の積極的活用

JGN II AP(札幌市内)との接続は、札幌市内まで延伸している岩見沢市自営光ファイバを利用するなど、イニシャル、ランニングコストを低廉化。

### ○研究開発による具体的成果・目的の明確化と資金・人材資源の集中

研究開発の実施にあたり、映像伝送システム等は既存するものを利用するなど、安定的なネットワーク利用環境のもと、アプリケーション本体の開発・実証実験に注力。

(映像伝送環境は、平成14年度に独自開発したDVIP伝送システムを活用)

### ○研究に関するプレーヤーは、各位置付けや役割を整理し、各々が責任を持って共同研究を推進

本研究に関する筑波大学側費用については、原則として大学側に委任。

岩見沢市側の費用(運用費など)については、研究に参加している被験者(岩見沢市民の協力者)はボランティアとして位置付けをするなど、可能な限り自主運用をすることで圧縮。

## プロジェクトの自己評価

JGN II の高速広帯域と専用回線によるセキュリティの確保により、遠隔カウンセリングにおける高品質な映像伝送を行うことが可能となり、つくばリサーチセンター、研究参加者(岩見沢市民の協力者)の協力のもと、筑波大学と岩見沢市が連携し、研究開発を実施することができた。